

「御子が生まれました」

ヨハネの手紙 一 4章 7節～21節

説 教 軽 込 昇 牧 師

東日本大震災が起こった2011年の秋、YouTubeに映像を提供する会社から依頼を受けて「後世に残す言葉」を語りました。「わたしたちは神に祈っています。神様、あなたがおられるのに、何故このような事件や事故が起こるのですか、そう神に訴え、むしゃぶりつくこと、それがわたしたちの祈りです」。神に叫ぶことすらできない方たちに代わって、神様、何故ですか、と叫び訴えることは、神を信じるからこそできる、わたしたちクリスチャンの務めではないでしょうか。多くの悲惨な事件や災害を経験した今年、そして今、祈りの言葉を与えてください、と祈る必要をさらに強く感じています。

大阪教会のきれいなクリスマスチラシが出来ました。チラシに載せたわたしのメッセージは、今年も変わりません。「主イエス・キリストは、わたしたちの中の、もっとも暗いところ、光も差さないところにお生まれ下さいました。わたしたちをお造りくださった神がわたしたちと同じ人間になられ、わたしたちの苦しみを一緒に担ってくださった日、それがクリスマスです」。わたしたちの心の周りに張りめぐらせた壁を溶かし、心の中に入れてくださるために神の御子は人間になられました。しかも徹底的に貧しくなられました。貧しさの中に、そしてみずぼらしさの中にお生まれになられたことを表わすのが、主イエスが飼い葉桶の中に寝かされた、ということなのです。

飼い葉桶は「まぶね」（馬槽）ともいい、馬や牛の食べる草やわらを入れる桶です。このあとの讚美「まぶねのかたえに」（21-256）では、「愛する主イエスよ、今ささぐるひとつの願いを聞きたまえや。この身と心を 主のまぶねとなし、とわに宿りたまえ」（6節）を大切に歌いたいと願います。わたしたちの内には貧しさだけでなく、多くの苦しみや、また醜さもあります。しかし、そのわたしたちの中に主イエスがお宿りくださることによって、美しいものに変えてくださいます。まぶねが素晴らしいもの、宝になります。まぶねにならせていただきます。いえ、わたしたちがそう願うよりも先に、主はまぶねの中に身を横たえられたのです。

自分の力ではまだ食べることも、生きていくこともできない幼子の中に、神の愛が始まっています。クリスマスは神様の愛の現れた日です。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけ

にえとして御子をお遣わしになりました。」（ヨハネの第一の手紙4章9節）「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」（ヨハネによる福音書3章16節）「世」というところにご自分の名前をいれて読んでみてください。主イエス・キリストのお生まれはわたしたちのため、このわたしのためです。

ヨハネ福音書においては、「世」は神に愛された世界であると同時に、神を憎み、神を裏切った世界でもあります。「その光はまことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。世は言葉によって成ったが、世はこれを認めなかった」（1章9～10節）。世はまた、「暗闇」とも言い換えられます。「暗闇は光を理解しなかった」（1章5節）。神は、その暗闇であるわたしたちを光にするために人間になられたのです。

主イエスは言われます、「父は、悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨をふらせてくださる」。神が愛して下さるので、わたしたちは生きることが出来ます。クリスマス、それは主イエスをわたしたちの中にお迎えすることによってわたしたちが素晴らしい宝であることがはっきりした日です。神の前に駄目人間は一人もいません。主イエス・キリストがわたしたちを追いかけ、わたしたちを「ただの人間」から「神を見つめる人間」へと変えてくださるのです。

あなたは大切な人です。あなたは愛されています。と宣言されています。そんなはずはない、と思われる方がいるかもしれません。しかし、見つめてください。あなたのために飼い葉桶の主はおられます。御子は、このわたしたちの世にお生まれになりました。

わたしたちは今年も多くの悲しみを経験しました。しかし、ここは御子主イエス・キリストがお生まれになられた世界です。このことは本日の週報1面「祈りの家」に、クリスマスのリングのエピソードとともに記しました。たとえ、どのような世界であろうとも、わたしたちの目を通して神はこの世界をご覧いただいております、そのことを信じて、わたしたちと共に祈る者となってください。

（記 説教要約奉仕者）